

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービスひかり富久山教室		公表日		令和7年3月10日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4	2	構造化し、必要な配慮が出来るスペースである。	こどもの状態によっては、狭いと感じることがある。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	2	支援が必要なこどもが多い曜日は、全員出勤にする等で調整している。	全員出勤にしている曜日がある分、職員2名が休みを取る日が出ている。土曜日も営業しており平日に職員が休むので足りなく感じることがある。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		一人ひとりの特性に配慮し、状態に合うように都度環境を整えている。パーテーションで細かく構造化し、絵カード等を用いてスケジュールを提示したり、自立課題の棚を構造化したりする等の視覚支援を行い、情報伝達に配慮している。	視覚の構造化は出来ているが、パーテーションでは完全な音の遮断は出来ないため、聴覚の構造化が難しい。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	1	こまめに除菌を行い、清潔な環境を整えている。	運動をするスペースがもっと広く確保出来ると良い。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		クールダウンや休憩時に個室を使用している。カーテンで仕切ることが出来るスペースもある。こども達が自分で選択して過ごすことが出来る環境になっている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6		月1回ミーティングを実施し、全員が参画している。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	2	ミーティングにて検討している。前年度の意向を今年度取り入れている。	無記名での調査であるため、意向の本質に添った改善かは保護者本人へ確認出来ない。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		ミーティングにて検討している。必要に応じて意見交換は出来ている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6		現時点では第三者評価を受けていない。保護者等からの事業所評価の意見を基に問題点・改善点を明確にし、療育の向上・業務の改善へ繋げていく。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		研修の機会が多い。	研修報告の時間が確保しづらい。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		6		新しい支援プログラムは、令和7年3月中にホームページ上で公表予定。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		本人への聞き取りや保護者面談を行い作成している。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		全員が関わって作成している。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		個別支援活動記録を記載する際にも反映されており、確認しやすいように工夫されている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察などを含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		アセスメントシートや保護者からの聞き取り、支援の評価を基に各項目に対し支援内容を具体的に設定している。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		過去のプログラムを参考にしながらミーティングで検討している。毎月全職員で検討し作成している。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		過去のプログラムを参考にしながらミーティングで検討している。同じ活動でもやり方を変えながら行っている。		

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		支援開始前・後の送りでこどもの行動やコミュニケーションの様子を細やかに共有し、よりよい対応や声掛けを模索し実践している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		個別支援計画に沿った記録、正しい記録の取り方について徹底し、支援の検証・改善につなげている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		最低6か月に一度はモニタリングを行っている。こどもの体調や環境などに変化があり必要な場合は、6か月を待たずに計画を変更することもある。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	6			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		余暇時間は、自己選択を促している。自己選択しやすいようにカードを用いる等の視覚支援を行っている。児童発達管理責任者が意思決定支援についての研修を受講した。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	1	学校へ迎えに行った際、先生へ学校での様子を確認している。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。			中学生・高校生を利用対象としている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	2	4	基本的には相談支援専門員を通して実施しているが、移行先からの求めがあれば直接情報提供する場合もある。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6		児童発達支援センターから定期的に研修の案内があるため、必要に応じて参加している。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		6		こども達や保護者からの希望を確認しながら検討する。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6		児童発達管理責任者等が放課後等デイサービス事業所連絡会へ参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		連絡帳への記入、送迎時の送り、電話連絡でこまめに伝え合っている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		6		ペアレント・トレーニング等の具体的な家族支援プログラムの提供は行っていないが、保護者から家庭での療育等についての相談には積極的に対応している。児童発達支援センターからの研修案内があった場合は、保護者へ情報提供する。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		事業所側からも面談実施を提案し、年1回以上は相談の場を設けている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		6		
41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6				

	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		毎月1回『ひかり通信』を発行している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		分かりやすい言葉や絵カード・ジェスチャーなど、障害特性や発達段階に応じて使い分け、1日の予定も可視化して伝えている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		6		外部からの参加者を呼べるような事業所規模ではない。今後の課題として検討する。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	1	5		マニュアルを策定しているが、家族へ周知出来ていない。周知方法の検討が必要。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		アレルギーの有無はアセスメントシートで確認、医師の指示書に基づく対応が必要なこどもは現在利用していない	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	2	4		
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	2	4		『重要事項説明書』にて説明しているが、周知までは出来ていない。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6			
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6			